

科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）

授業科目名：初等国語科教育法

登録学生数：173名

「初等国語科教育法」授業報告

国語教育講座・書写書道 東 賢司

1. 授業の概要

私は元々この科目の担当ではなかったが、諸事情により、昨年度からこの授業を担当することになった。昨年度と異なり、この授業を担当することは、非常勤講師の先生と担当することが前期のうちに決まっていたことから、授業の担当回数などを相談し授業内容を検討してきた。受講生が150名はいるだろうという予想から、遠隔授業を念頭に準備を進め、大学の警戒レベルとは関係なく遠隔非同期で行うことにした。非常勤の先生は、遠隔同期を基本としたため、授業の形態が、遠隔同期と非同期、対面の3種類が入れ替わりで実施されることになり、更に後期前半と後半では授業の開講形態が変更されたり、年明けにはオミクロン株の蔓延で「明日から授業は停止」とされたりと、諸対応に振り回される半年になった。

内容であるが、授業担当回数は昨年度と同様に4回になったので、①教科書教材の分析、②教材の作成、③指導案の作成、④模擬授業動画の作成、視聴と省察の構成で行った。④については分割して実施せざるを得ず、日程の設定に腐心した。小学校免許取得のための教科の指導法は、コアカリキュラムにより、上記の内容を必ず実施することが定められているが、従来はこれが行われておらず、課程認定申請の過程でも指摘を受けていた。このため、これらを含めた内容で構成したが、授業時間外の学習の時間がかかなり増やさざるを得なくなり、受講生には大きな負担をかけた。

私は遠隔非同期型の授業を行ったため、毎回のレポートや課題を当日や翌日に提出させることはできなかった。幸いに、非常勤の先生の理解で、私の担当回は各週で行えたため、遠隔非同期型の動画視聴のあと、レポート等を作成してmoodleに提出することを1週間以内に行うこととし、その締め切り後、確認を

しながらコメントを付けたり修正することを求めたりした。毎回の課題は160名を超えて提出されるため、これらを評価し、コメントを付ける作業は丸2日かけても終了できなかった。「初等国語」で書写の実技学習をしていた時も同じであるが、コメントをどのようなやり方で行うのかは再検討が必要であると考えている。

2. 授業の実際

自分の担当回では、模擬授業を行い、他者の授業を見て考えるということを経験的な目標とした。十分ではないが、前の授業までの成果物や理解を次の活動に生かすということを目指して授業を展開した。それぞれの内容の概要は以下の通りである。

①教材の解説

受講生名簿を確認したところ、「初等国語」を受講していない学生が約50名いることから、書写教材の解説をしておかないと授業の計画を立てることができないと判断し、「学習指導要領を踏まえた指導内容の理解」とテーマをして、指導要領や教科書教材の中で、代表的な物について解説を行った。

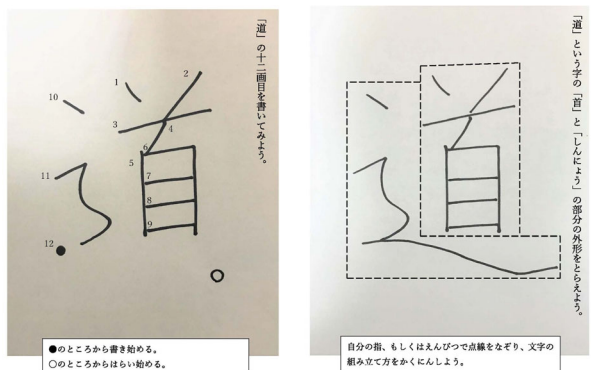
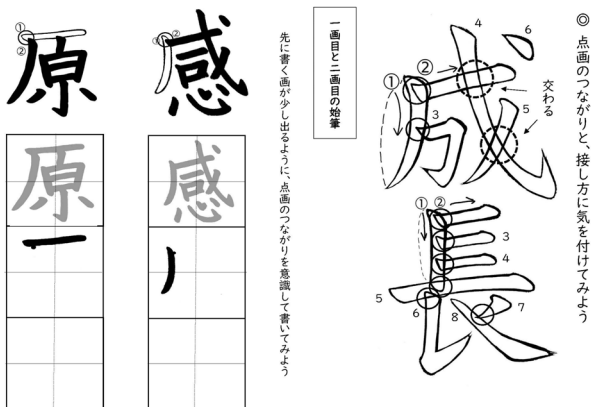
ここでも「書写の学習内容の構造表」を利用し、態度・技能・知識、理解があることを説明し、また、書写の教科書は「字形」と「配置・配列」が中心であること、指導要領の中で「筆順」について記載しているのは、唯一国語科書写であることを説明した。教材については、指導要領が低学年・中学年・高学年に分かれて記載していることから、この3つに分けて教材を取り上げた。

②教材作成

教材を作成することは、既に何度か経験のある受講生であり、書写の教材を開発するの

はそれほど苦にはならなかったようである。特に毛筆教材は、文字が大きく特徴が捉えやすいために、提出された教材では毛筆の課題が多く見られた。

ここで言う教材研究や教材開発は、次回以降の指導案作成や動画作成にも繋がることを意識するよう指導したが、何名かの学生は繋がりが意識できておらず、後々修正を行うことになった。



受講生の課題提出から「成長」「道」

③指導案作成

「学習場面を想定した授業設計と学習指導案作成」とテーマして、授業を行った。学習指導案は、単元名から始まり、本時の指導まで多くの内容を記載することになるが、附属での実習を意識させながらも、あまり時間をかけることができないため、指導案の中でも「本時案」に絞って作成をさせることにした。書写には「試書」という他の教科や分野にはないものがある、「試し書き」の効果について説明し、これを本時案の中に入れることを求めた。

略案ではあり、また、活字ばかりで授業の実際のイメージがわかりにくい作業であるが、このあと、模擬授業が待っているために、多

くの学生は真剣にこの学習に取り組んでいた。

④模擬授業動画作成

模擬授業動画は、Zoom等の通信機器の録画機能を用いて作成するよう指示した。これらについては、moodleに提出することができないため、Formsに提出させた。動画の提出は初めての学生もいたため、多少の混乱はあった。毛筆学習を取り上げた学生が多く見られたが、近年の教科書はQRコードが義務付けられており、そこからヒントを得た学生がかなり見られた。書写の場合は、毛筆の試作をビデオに撮影して公開しているものがあり、わかりやすく作成されている。それらを使用している者も多く見られた。

⑤模擬授業の視聴と省察

提出された模擬授業160件ほどをすべて視聴して評価をしたあと、完成度の高いもの、特徴的なものを15件ほど抽出した。それらもmoodleには載せることができないため、YouTubeに載せてリンク先を示し、視聴させる形にした。学生には全部の動画を視聴させて、その中から3件の授業を選んで感想を記載させた。わかりやすい授業を選んだ学生が多く、それが重要であることを再認識した。

⑥問題点 字幕について

この授業は小学校免許を取得するために必修の科目であり、動画に字幕が必要になった。それを学内機関に依頼をした。2週間以上前に提出、1本だけしか依頼ができないというルールがあるが、その完成が授業直前になったり、字幕のテキストだけを送ってきたこともあり、授業実施に影響が出た。

3 アンケート

受講生への聞き取りでは、「授業ができるまでの流れが具体的に掴めてよかった」とか「書写の課題作成がこれほど面白いものだとは思わなかった」という意見が寄せられた。一方で、「指導案の書き方を詳しく教えてほしい」という声もあった。「教科の指導法」は、課程認定のルールの中で枠組みが細かく定められており、窮屈な中での授業実施をせざるを得ないが、手間を惜しまず熱意を持って接すれば、学生達に届くということを非常勤の先生から学んだ。 2022.2.18